

血圧での生活の幅を広げ、安全に

語壁一ハヒニテテニシニ、ヒシニ 選択ニ

在宅医療・介護連携推進事業

問合せ 高齢福祉介護課介護予防・地域支援係内 196

羽村市でも4人に1人が65歳以上。「通院が大変」「自宅で医療や介護を受けたい」そんな相談が寄せられることが多くなってきました。そのようなときは、自宅で医療と介護を受ける「在宅医療・在宅介護」という選択肢があります。医療保険や介護保険を利用して、定期的に医師や看護師、ホームヘルパーなどの専門職に自宅に来てもらい、医療や介護のサービスを受けられる仕組みです。

吉岡さんは1日に5～6件のお宅を訪問して、
それぞれの状態に合わせたりハビリを行います。

訪問元の元気に耳を傾け、「うは～」
数回入院しりハビリに励んでいるAさん（99歳）。
吉岡さんと見つぶや話を頑こになりません。

吉岡さんと会話する様子に、2人の絆を感じます。「けがをしたり手術をしたり大変だつたけれど、

「マンツーマンで熱心に、体調を考えながらやってくれるのであります。持病があるため、自宅で生活に合わせたりリハビリが受けられるのが良いです。これまで受けた中で最高のリハビリです」と絶賛。メモを取っていた奥様も「リハビリのない日にも体を動かせるように、何をやつたかメモしています。最近、特定健診で主人の身長が伸びていてびっくりしました。リハビリで腰が伸びてきましたのでしよう。本人も生き生きしてきたように思います」と嬉しそうに教えてくれました。

吉岡さんは「リハビリはだいたい週に1回なので、残りの日に何もしないと体力が落ちてしまう」と言います。

「ですので、リハビリ以外の時間にも、ちょっとでも体を動かしていただけるといいなあと、分かりやすい運動を心掛けています」

＊＊＊

吉岡さんは病院でのリハビリと訪問リハビリの

「病院のリハビリ室だと環境が整っているので確かに施術はやりやすいです。一方、ご家庭では状況がまちまちなので、工夫が必要なところもあります。リハビリの目的を、家の中でどうしたら安全に生活できるか、どうやって生活の範囲を広げていくか、そういう方向で考える必要があります」

生活に根差したリハビリをいかに提供できるか

※訪問リハビリテーションの利用には一定の要件があります。

令和6年度 羽村市介護の日講演会



▲利用者の状況を慎重に確認しながら 施術を行う吉岡さん



よしおか たかのり
吉岡 孝徳さん
【羽村三慶病院在宅支援部訪問リハビリテーション科 科長】
小学生の頃、けがでリハビリを受け、理学療法士の仕事に关心を持った。平成18年、羽村三慶病院に理学療法士として就職、リハビリ室での勤務を開始。その後在宅支援部に異動となり、訪問リハビリテーションに従事して17年。